

5.20

■司会 植田 浩三 <高知県> 大野見村教育委員会 社会教育主事
溝部ひとみ <広島県> 広島県立安古市高等学校総括指導員

1. 校区内青少年育成の実践と評価

14:15~14:40

— 校区組織の結成と運動の展開 —

岩下 純宏 <鹿児島県> 国分小校区青少年健全育成連絡会 代表

校区の青少年は校区で責任を持って育成する気風をつくろうと、平成11年6月からPTA、自治公民館長、町内会長、スポーツ少年団育成者、子ども会育成者等が協力して実践活動を進めてきた。小学生を中心に挨拶運動を行い、公民館とタイアップした鯉のぼり大会、相撲大会、しめ縄作り、餅つき、清掃ボランティアなどへの参加呼びかけによって、校区民が小・中・高校生まで目を向け健全育成に取り組む気運が高まってきた。

2. 感動の共有

14:40~15:05

— ボランティア・行政・中学生とで朗読公演に取り組む —

竹中 圭子 <福岡県> 虹の会 会長

昭和54年、“我が子に本とのいい出会いを”という母親の願いから朗読ボランティアを発足、現在会員40名の「虹の会」として活動中である。朗読を通して愛・平和・祈り等を伝え、心をつなぐ朗読発信のまちづくりをしようと、行政・中学校と一体になって公演活動を行っている。平成11年には、500人収容の町民ホールで昼夜3回の公演を実施、1500人と感動を共有することができた。活動の意図するもの、内容、方法、今後の課題を発表する。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 行動する子ども会の試練と学習

15:40~16:05

— 参加することから得ること —

比嘉 清美 <沖縄県> 西原町立西原南小学校 PTA 会長

平成3年、単位子ども会を発足、同時にPTA活動にも参加し現在に至る。子ども会にしてもPTAにしても人が集まらなければ事が進められない。子ども・親・地域の人たちに、活動の様子や大切さ、参加することの意義をわかってもらうために、まつりなどの行事を開催した。その結果、少しずつではあるが参加することで何か得られるという意識が醸成されてきた。その経緯と課題について発表する。

4. ふるさと総合学習「ちゃぐりんスクール」

16:05~16:30

— 農業体験プログラムへの農協参加 —

伊東 雪子 <佐賀県> 南波多農業協同組合 生活指導員 (企画・運営担当)

農協・女性部が中心になって、地区の小学生を対象に平成8年度から「農協子ども教室」をスタートした。目的は、子どもの時から農業に親しんでもらうことによって、将来の農業の担い手を育成することにある。毎月第4土曜日の午前中にJAの施設を使って、年間10回程度活動している。みそ作り体験等、学校では学ばないことを学習に取り入れているが、年々参加者が増えている。平成11年度は38名が体験学習に参加した。

5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 浜崎 政寿〈島根県〉 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事
田島 恭子〈佐賀県〉 財団法人「孔子の里」 事業担当

5.20

1. 学社融合研究会のアプローチ

14:15~14:40

—教育における異業種交流・自己開発の理念と方法—

○森田啓二・富崎剛章・桑原広治〈熊本県〉 菊水町立菊水中央小学校 教頭

学社融合の推進は「教職員の意識改革から」という視点から、「あらゆる分野の方々から知恵をいただく研究会」を目指し、県内の教職員、行政職員などで平成10年に発足、年間5回ほど研究会を開催している。教職員等と地域の人が学社融合の理念を理解し、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の各領域において融合を図るには、専門的指導者が必要であるとの考えから「人材育成」を視野に入れ、理論と実践の両面から研究を進めている。

2. 「ゆめのなかまたち」

14:40~15:05

—府中町子どもセンターの取り組みを通して—

加美貴代香〈広島県〉 広島県府中町子どもセンター運営協議会事務局

平成11年7月に子どもセンター運営協議会を発足、現在は、府中町（社会教育課）に事務局を設置し、15名の子どもセンターボランティアスタッフと活動をしている。公民館内の一室を「子どもセンター」として開放し、地域の子どもの体験活動や家庭教育を支援する情報を広く収集、広域（広島市3区、安芸郡4町）に情報発信を行っている。子どもの参画できるセンターづくりを目指して活動中である。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 地域に根差した国際交流活動

15:40~16:05

—ワールドカップサッカー語学ガイドボランティア活動を目指して—

飯田 文典〈大分県〉 ワールドカップ語学ガイドボランティア組織「ANIMO（アニモ）」事務局

ワールドカップという国際的なイベントへの参加を目指す中で、語学という媒介を通して若中年層を巻き込む公民館活動を行っている。平成9年以降、英語・中国語・スペイン語・韓国語会話の語学サークルや「インターナショナルくらぶ」がスタート、平成12年3月には語学ガイドボランティア組織「ANIMO（アニモ）」が発足した。ボランティア養成講座も開始する。留学生との交流や他団体との連携によって、国際交流のネットワーク化を進めている。

4. 生涯学習指導者養成にチャレンジする全国初の高等学校

16:05~16:30

榊原 恒司〈広島県〉 広島県尾道高等学校通信制課程総合学科 科長

平成12年4月より通信制課程のカリキュラムに生涯学習指導者養成コースを設置、開講した。指導者養成のために8科目（16単位）を用意し、すべて修得すれば「地域アニメーター」の認定を行い、さらに1年間のボランティアを経験すれば、尾道市教育委員会より認定書が交付され人材バンクに登録される。資格取得後の活躍の場の提供、「しまなみ大学」との連携が、今後の課題である。コースの目的、具体的内容・方法、展望について発表する。

5. 総括討論

16:30~17:00

5.20

■司会 高崎 茂直 <大分県> 大分県立香々地少年自然の家 指導課長
 淵田 桂子 <佐賀県> 佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」生涯学習サポーター

1. 野芝居「鯨神」

14:15~14:40

—歴史遺産の復活とまちの再発見—

浅田 直幸 <長崎県> 崎戸町「ぶからあ」たい 隊長

崎戸町は古式捕鯨の基地として栄えた町である。平成8年に結成された町活性化団体「ぶからあ」たいが中心となって、江戸時代の勇壮な鯨組の活動と義太夫勝清の偉業を野外での芝居として再現、実物大の鯨の模型も製作した。壮大な捕鯨の歴史や先人たちの偉業を知り町の魅力を再認識することによって、町を愛する仲間が増えた。わが町再発見隊タウンウォッチングの開催から「鯨神」上演までの地域づくり活動の経緯、課題等を発表する。

2. 届くか「とどろき女太鼓」

14:40~15:05

—女性有志の超過疎地のまちづくり—

小野川章男 <高知県> 大正町「四万十川 とどろき太鼓愛好会」代表

主婦、町職員、教職員、保育士等の女性有志が、地域の民俗文化を掘り起こし、和太鼓を地域文化として育て根付かせたい、和太鼓を通して人を育てようと、平成7年11月から活動している。これまでに町内外のイベントに50回以上参加、地域交流の輪が広がり、町づくりの活力となっている。メンバーの親密感が増し、物事への取り組みの姿勢も変わってきた。平成11年度は特に中学生との交流・競演によって、世代間交流と理解を深めた。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 音がつなぐ人をつなぐ街をつなぐ

15:40~16:05

—卑弥呼太鼓海峡を越える—

太田 浩二 <福岡県> 甘木市「卑弥呼太鼓実行委員会」元代表

1988年甘木市民の祭り「邪馬台国 in あまぎ」の中で太鼓を創設、以来市のPRと太鼓を通じた国際交流に努めている。韓国の伝統打楽器を取り入れ、リズムや形態を参考にした特徴のある和太鼓である。'98,'99年には、韓国水原市華城百中祭で招待公演、甘木市民の祭りでは釜山市より釜慶大学の学生グループが訪れた。太鼓を通じた音の交流・心の交流の意図するもの、成果と課題等について発表する。

4. 17音のスケッチ

—水仙の里・野母崎 俳句文化のグラデーション—

16:05~16:30

藤井 卓 <長崎県> 野母崎町「野母崎潮句会」会長

伝統の俳句による学習の成果を積み上げ、町の人材・資源を活かしながら人々の自己実現を図ろうと、公民館を中心に活動している。月1回の研鑽、年2回の町民俳句大会、福岡県杷木町との俳句交流、他町との吟行交流、中学校俳句教室、新任教職員俳句郷土芸能教室等、地域の歴史と文化を学習し、見慣れた町の景観をいろいろな角度で楽しみながら見直し、町の魅力を再発見している。

5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 本村 信幸 <長崎県> 野母崎町樺島公民館 社会教育指導員
小松 節子 <高知県> 高知県生涯学習まちづくり研究会事務局

5.20

1. 人生は潮干狩り

14:15~14:40

—社会人落語交流の16年—

矢野 大和 <大分県> 県南落語組合 組合員

それぞれに仕事を持つ社会人20名が、年間360回ほど大分県内のいろいろな所から呼ばれて喋っている。人生には笑いが必要である。落語を通して自分の生き方や存在について考えている。自分がやっていて楽しいことが、人の楽しみにつながるのであれば嬉しいことである。自己実現の喜びや生き甲斐が、他者との幸福感の共有にまで発展していくように願いながら、問いかけながら活動している。

2. 小林おもしろ発見塾

14:40~15:05

—好っじゃー小林—

清水洋一・小園久雄 <宮崎県> 小林おもしろ発見塾 塾長

ふるさと再発見をテーマに、市の公募で集まった市民の地域おこし活動である。平成9年開塾、平成11年度は20代~70代の異業種の市民72名が参加した。地域資源、歴史、文化等の様々なふるさとの魅力を塾生が自主的に探る自主研究を取り入れ、その成果を市民に発表する場を作った。座学や訪問調査、体験学習等を通して街のよさを再発見し、ふるさと意識や郷土愛が徐々に醸成されつつある。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 男女共同参画社会の実現を目指して

15:40~16:05

—女性のためのハンドブック作成—

森部真由美 <福岡県> 生涯学習をすすめる甘木朝倉女性会議 編集委員長

男女が平等で互いに輝きながら生きるためのアドバイスを問答形式でまとめた冊子である。平成10年度の男女共同参画セミナーの事業として取り組み、2年がかりで作成した。

家庭、教育、高齢者福祉、障害者福祉、農業、労働、性と健康、地域社会の8分野に分け、女性が日常生活の中でぶつかる疑問・問題への助言をまとめている。500部を頒布、家の中で一人悩んでいた女性からの喜びの声、男性から「そんな悩みがあったのか」との声が届けられた。

4. 広域ネットワーク「天国の食卓と地獄の食卓」片手にカブト虫 片手にマウス

16:05~16:30

小寺 暢 <宮崎県> 0986(まるくやろう)会・風人間の会 会長

県際化・市町村際化を目標に、市外局番共通の宮崎県1市5町と鹿児島県2町の広域市町が、0986(まるくやろう)を合言葉にネットワークを形成している。1990年にスタートし、少年交流、出愛、ふれあい、水と土、企画の5部会が、それぞれ人間交流と共同活動(民間ベース)を実践してきた。その結果、宮崎サイド1市5町が合同で文化ホールを建設することになった。活動の原点や問題意識、内容と方法、今後の展望等を発表する。

5. 総括討論

16:30~17:00

5.21

■司会 三角 幸三 <熊本県> 熊本県教育庁社会教育課 主幹

西山香代子 <山口県> 山口県生涯教育センター 生涯学習ボランティア相談員

1. わがまちをジャズの流れるまちに

9:00~9:25

- 「民」が挑戦する地域活性化実験 -

草場 弥史 <山口県> 於福地区活性化推進協議会 発起人・世話役

発表者は脱サラ、Uターンした「朝日館」のオーナー。地域の活力の低下を憂いて公民館まつり、ジャズコンサート、於福地区の運動会を企画するなど「民」の立場から地域おこしに挑戦している。活動の拠点組織は市民の有志約20名からなる地区の活性化協議会。活動の目的は「住民の心を繋ぐこと」、「子どもたちに誇れるまちにすること」、「地域から新しい発想を発信していくこと」である。

2. 花の街道 命のロマン

9:25~9:50

- コスモスと菜の花に賭けたコミュニティの創造 -

森田 京子 <鳥取県> 宇田川を美しくする会 宇田川公民館主事

宇田川公民館を拠点として「宇田川を美しくする会」を結成。平成元年6月から活動を開始。「淀江町の史跡と名水を結ぶ道路を花で飾ろう」を合い言葉に「コスモス街道」づくりを始める。区内11の自治会長を中心に30~50代が活躍。「コスモス街道」、「菜の花街道」づくり、フォトコンテスト、生け花展等に着手。さらに青少年育成会の結成、国際交流事業の開発にまで発展している。

~ ティータイム ~

9:50~10:25

3. 歌を翼にふるさと創生

10:25~10:50

- 「ふるさと斐川のうた」制定の企画と実践 -

青木真理子 <島根県> 斐川町ふるさとデザイン課 主任

担当は斐川町の「ふるさとデザイン課」。まちの合併45周年を記念して「ふるさとへの思いを歌に託そう」と発想。『心に残る「ふるさと斐川のうた」制定委員会』を発足させた。町内を初めとして歌詞の公募。子どもから大人まで入賞作品を本におさめ、大賞作品についてはCD化し、CDブックとして刊行した。今後は旧村落単位の学校の校歌など斐川に関するうたを集めてCD化する予定である。

4. ふるさとからの熱きメッセージ

10:50~11:15

- 二鹿（ふたしか）しゃくなげマラソン7年の軌跡 -

藤村 幸生 <山口県> 二鹿しゃくなげマラソン大会事務局

ジョギング仲間の発想を企画化。会員30名の二鹿昭和会が中心。五月の連休頃に咲き誇るツツジ、しゃくなげの群生地をフィールドとして活用したマラソン大会。今年で7年目を迎える。地域総出で参加者を迎えるアットホームな雰囲気年を追って参加者も増加している。「ふるさと通信」を発行し、地元を離れた人々に熱いふるさとのメッセージを届ける。

5. 総括討論

11:15~11:40

6. 総会・閉会式 (4 階大研修室)

11:50~12:20

■司会 松本 英俊〈長崎県〉 大瀬戸町教育委員会 社会教育主事

嘉屋美智子〈広島県〉 広島県教育委員会生涯学習課 社会教育係長

5.21

1. 異年齢集団体験プログラム

9:00~9:25

—「市房ユース宿泊登校」—

大園 敏男〈熊本県〉 水上村立湯山小学校 教諭

主催は「湯山地区人づくり振興会議」。文部省による道徳教育の指定校となったのがきっかけ。地域が子どもを育てるということを前提に、子どもの縦のつながりを強化するため、全校児童を異年齢の二班にわけ、ユースホステルからの合宿登校を行う。親元を離れ、寝食を共にし、指導者は地域の方々。今年で3年目。地域の学校に対する協力も絶大となった。

2. ツインスタークラブ

9:25~9:50

—多胎児家族の相互支援活動—

吉井 一美〈福岡県〉 ツインスタークラブ 代表

目的は多胎児をもつ(もしくは妊娠中の)家族の交流、ストレスの解消、情報交換。公民館、女性センター、保健福祉センターを活動の場とし、「勉強会」、会報の発行、クリスマス会、運動会など各種レクリエーションのプログラムを企画。平成5年に7名のツインママでスタートしたが、どんどん輪が広がり、多くの多胎児家族に安心と元気をもたらしている。

~ ティータイム ~

9:50~10:25

3. 「わんぱく寺子屋寮」

10:25~10:50

—共同生活八つのプログラムの衝撃効果—

林田 正弘〈熊本県〉 熊本県立あしきた青少年の家 専門職員

熊本県立あしきた青少年の家を舞台に、子供達が6泊7日の通学合宿を行う。目的を自立心と社会性の育成におき、パーティーの企画準備、料理、無人島へのカッター訓練など八つのプログラムを用意した。家庭を離れ共同生活を送るという条件を最大限に活用して、活動の展開は子どもの主体的参加と協力を重点をおいた。参加者は近隣の小中学校から総数62名であった。

4. 「吉野ヶ里遺跡保存運動」の教訓

10:50~11:15

—歴史・文化・自然保護の論理と方法—

太田記代子〈佐賀県〉 吉野ヶ里遺跡全面保存会 佐賀中部保健所長

日本の遺跡行政は「記録保存」のみで、実物は破壊され続けるという歴史であった事は明らかであり、「実物保存」に向けて行政の決定を見るまでには非常な努力が必要であった。「吉野ヶ里遺跡全面保存会」および「佐賀の自然と文化を守る会」は全県、全国に呼び掛けて、遺跡保存と自然公園の建設を働きかけてきた。発表者は地域の医師であり、健康の視点から運動に参画し、そのプロセスと成果を報告する。

5. 総括討論

11:15~11:40

6. 総会・閉会式 (4階大研修室)

11:50~12:20

5.21

■司会 宮内 健二 <高知県> 高知県教育委員会生涯学習課 生涯学習課長
上杉奈緒子 <熊本県> 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事

1. 「心豊かで活力にみちた美しい平生」の実現を目指して 9:00~9:25

— 「民」が挑戦する地域活性化実験 —

中山 一弘 <山口県> 平生町教育委員会 派遣社会教育主事

平成6年度より平生町生涯学習推進本部・生涯学習推進協議会を中心として、本格的な諸事業を開始した。実践の中でも、特に「町民憲章実践活動」「生涯学習まちづくり出前講座」を中心としている。自治体の全部局に係わる出前講座は、具体的な地域情報に対する学習の主体性を向上させ、住民と行政との係わり方の密度を増し、子どもたちによる郷土学習の取り入れ等、生涯学習に新しい地平線を拓きつつある。

2. カスミサンショウウオの里山づくり 9:25~9:50

— 君は素晴らしい —

大谷 妙人 <福岡県> グラウンドワーク福岡 代表世話人

活動の舞台は福岡県宮田町、カスミサンショウウオが生息している如来地区である。主催は「グラウンドワーク福岡」。この組織は市民の参加を得て環境の美化、自然保護の運動を展開している民間の団体である。今回の取り組みは宮田町立笠松小学校の賛同を得て当校における「総合的学習」に発展した。

~ ティータイム ~

9:50~10:25

3. 「地域教育コーディネーター制度」構想と展開 10:25~10:50

— 匹見町における地域教育コーディネーターの機能と役割 —

大畑 伸幸 <島根県> 匹見町教育委員会 地域教育コーディネーター

島根県では平成11年度より従来の派遣社会教育主事制度に代えて、新たに地域教育コーディネーターを市町村に派遣することとなった。匹見町では生涯学習の振興、学社融合の実践等を具体的な内容として、「付属機関設置条例」に照らして生涯学習審議会を設置した。現在、生涯学習構想の中で学社融合事業に取り組みを始めたところである。

4. 連携型生涯学習システムの開発 10:50~11:15

— 関係機関・団体のネットワーク化 —

竹迫 芳朗 <鹿児島県> 東郷町教育委員会社会教育課 派遣社会教育主事

東郷町の「モデル校区公民館」の指定、「いじめ対策」等を契機として町内各種の関係機関・団体と緊密な連携のはかれるネットワークを構築している。現在5校区の内4校区に主事を設置し、独自講座の開設、公民館組織の見直しを実行し、活動が活性化している。活動内容も青少年ボランティア、健康教育、伝統芸能の保存等多岐にわたっている。

5. 総括討論 11:15~11:40

6. 総会・閉会式 (4階大研修室) 11:50~12:20

■司会 原 悟司 <島根県> 島根県教育庁生涯学習課 地域学習振興班長
吉本 敏子 <山口県> 徳山教育事務所 生涯学習ボランティア活動コーディネーター

5.21

1. 農業創造：オリジナリティの開発と生産者の学習 9:00～9:25

－農業法人が農業を改革する－

秋吉 義孝 <佐賀県> 佐賀県農業法人協会 副会長

生産者によるオリジナリティあふれる農法を開発し、若手が活躍できる場を切り拓くためには、農業法人の設立がカギであるという視点から、平成7年以来、県内の農業法人に対し組織化を呼び掛けてきた。目的とするところは、研修の充実、商品開発と情報の発信、消費者との連携など課題が山積している。

2. 地域づくりの中核：自治公民館の活動支援と生涯学習行政の役割

9:25～9:50

川口 公子 <福岡県> 上陽町中央公民館 館長

自治公民館に対して中央公民館はどんな支援ができるか。その答えを自治公民館自身から出して貰うため、それぞれの館の独自かつ主体的な企画と取り組みに対する支援策として、予算援助を中心に「地区公民館活性化推進事業」を具体化した。結果的に公民館活動への参加は増大し、地域の連帯感もうまれたが、一方では、地域の格差を生み出すことにもなった。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

3. えびの市における自治公民館活動

10:25～10:50

馬越協泰二 <宮崎県> えびの市教育委員会社会教育課 課長

地域づくり、人づくりの原点は住民自治の場としてもっとも身近な拠点施設である自治公民館であるという視点から、自主企画、自主運営を目指している。内容的には新規のアイデア、セールスポイント、特に工夫した点などに考慮してプログラムにかかる講師謝金を助成している。触れあい、学び合い、実践し合う場が自治公民館に定着し、地域づくりに果たす役割は大きい。

4. フラワレイ・アロハルールのボランティア活動

10:50～11:15

－フラダンスで高齢者と結ぶ－

佐藤 晴美 <大分県> フラワレイ・アロハルーフ 事務局

大分市を活動の舞台に、月に一度、老人ホームの慰問とフラダンスによるふれあいを目指している。自分達が踊って楽しむだけにとどまらず、ホームで指導をかねて一緒に踊ることで、入所者と一体になった活動が可能になった。入所者の喜びが会員の次の活動の意欲につながっている。

5. 総括討論

11:15～11:40

6. 総会・閉会式 (4階大研修室)

11:50～12:20